

●アッパー・ライン・バレー・プロジェクト ～国境を越えた観光広域連携～

団員 中村 嘉孝

「アッパー・ライン・バレー・プロジェクト」は、ドイツ、フランス、スイス3カ国のライン渓谷上流部のドイツ語圏とフランス語圏にわたる地域の広域観光連携の試みである。本市の姉妹都市、フライブルク市もドイツ側のエリアに含まれる。

今回の視察では、プロジェクトの一翼を担うバーゼル市観光局でプレゼンテーションを受けることができた。当日の聞き取りといただいた資料をもとに報告することにした。

観光局では、クリストフ・ボザー局長の歓迎挨拶の後、プロジェクト取り組みの期間を3つに分け、アン・ビュラーさんからEUから資



(レクチャー用に提供された資料)

金援助を受けた1期(2009年-12年)、2期(2013-15年)のプロジェクトの説明、メリンダ・モルガンティさんから3期目(2016年-現在)の取り組みの説明を受けた。

1. プロジェクトがカバーする地域と主要観光地(地図参照)

この地域は、ヨーロッパ中央部に位置し、ライン川で結ばれ、歴史的なつながりも交流も深い。各国主要都市と高速鉄道、高速道路で結ばれ、フランクフルト、パリ、チューリッヒといった国際的ハブ空港とのアクセスも至便である。



(プロジェクトがカバーする主要都市)

2. プロジェクトがどのようにして立ち上がったのか？

15年前から小さな取り組みを積み重ね、各国・地域別の観光戦略から統一して効果的なマーケティングをもとに、ウェブを立ち上げ、パンフレットを作成し、海外の旅行会社にプロモーションを行うなどエリア全体の知名度向上を目指した。

プロジェクトには、当初、16の市や地域などの自治体、10の国家機関、5つの商工会議所、2つの地方空港からなる33のパートナーが参加し、資金を拠出するとともに、EUの財政支援も申請した。

そのため、1期目は206万ユーロ（約2億4,400万円）、2期目は127万ユーロ（約1億5,495万円）という潤沢な予算があった。しかし、33のパートナーそれぞれに投票権があったことから会議での議論がなかなか進まず、エリアを英語名の「アッパー・ライン・バレー・プロジェクト」として売り出すことを決めるだけでも1年半かかったそうだ。

3. プロジェクトの目標とターゲット

トスカーナ（イタリア）地方、チロル地方（スイス）といった人気観光地と比較すると、面積、人口では遜色なくても宿泊数で見劣っており、エリアでの宿泊数の上積みを目指した。

旅行者のターゲットは、米国、カナダ、中国、インド、日本・韓国、ブラジル、ロシアを対象とすることにし、各国に担当エリアを割り振り、3カ国平等に紹介することに留意しながら、プロジェクトのセールスを図った。



（プレゼンするアン・ビューラーさん）

4. ワーキンググループと地域資源の活用

プロジェクトでは、①マーケティング、②地域内の観光関連労働者への啓蒙（教育）、③新規事業、④地元発着ツアー商品の醸成（インカミング）の4つのワーキンググループに分かれ、詳細な取り組みを協議した。

例えば、クリスマス・マーケットやカーニバル、酒（ワイン）やグルメ、歴史的建造物、宮殿や城・要塞、自然景観、アウトドアスポーツなどテーマに沿って地理的な近さを活用し、3カ国を巡る物語性のある周遊旅行が提案されている。

5. 3期目の現状

メリンダさんからは、3期目に入り、EUからの支援が終わり、予算が22万9,500ユーロ（約2,800万円）に激減し、ドイツ・南ブファルト地方の離脱など、参加パートナーが14に減少している厳しい現状が語られた。そのため、限られた財源、人材の下で、新たなプランをつくり、ニュースレタ

一の発行で情報発信を行うなど集中的に売っていく必要性を訴えていた。

6. 所感

視察時間の関係で、十分な質疑にならなかったが、このエリアの移動に便利な周遊パスは、開発中とのことだった。旅行者は鉄道や車での移動か、旅行社のツアーで周遊している。

地域の観光資源を開発（発見）することは、野志市長のいう「たからみがき」につながる。それが地域を越え「物語性」を帯びることによって、地域をつなぐ旅に付加価値が生まれる。広域観光ルートの磨き上げに向けて、このプロジェクトの取り組みから、学ぶべきことは多いのではないかと感じた視察だった。



(バーゼル市観光局での質疑)